

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 17 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463476

研究課題名(和文) 島嶼部，過疎地の看護職者のための遺伝教育プログラム開発に関する研究

研究課題名(英文) Study about Genetics Educational Program development for nurse in the island and under-populated area

研究代表者

佐々木 規子 (SASAKI, Noriko)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・助教

研究者番号：90315268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：島嶼部，過疎地の地域住民にとって，身近な看護職者が一次遺伝相談の窓口として担う役割は大きいと考える．本研究は，看護職者が窓口となり得る一次遺伝相談の充実のために，島嶼部，過疎地の看護職者のための遺伝教育プログラムを開発することを目的とする．プログラム開発に向け，島嶼部，過疎地の看護職者の遺伝相談の実態調査を行った．看護職者は地域住民が遺伝相談に抵抗を感じていると捉え，看護職自身は「知識・情報，資源のなさ」，「経験不足」，「相談先のなさ」等の問題を抱えていた．プログラムはこの問題に対応する内容で構成し，島嶼部の看護職に実施した．更に活用性を高めるために，継続教育の中で洗練していく必要がある．

研究成果の概要(英文)：Nurses have the role of consultant on genetic issues for local residents on the islands and in under-populated areas. The purpose of this study is to develop a genetic nursing educational program for nurses in these areas. We investigated the actual state of nurse consultation on genetic issues on the islands and under-populated areas. Nurses could feel residents' resistance toward genetic consultation. In addition, nurses had problems including "no knowledge, no information, no manpower" "lack of experience" and "no consultation destination". We put together a genetic nursing educational program to address these problems, and we delivered the program to nurses. To improve usability of the program, it will be necessary to be refine it in continuing education.

研究分野：遺伝看護学

キーワード：一次遺伝相談 遺伝看護教育 島嶼部・過疎地

1. 研究開始当初の背景

島嶼部の多い長崎県は県面積の約 70%が過疎地であり、その過疎地に網膜色素変性症や脊髄小脳変性症等の遺伝病患者が多い地域がある。全国的に遺伝医療体制は整いつつあるものの、島嶼部の多い長崎県は遺伝の専門職や施設が少ない等の地理的物的問題から地域住民は遺伝相談を容易に受けることができない状況にある。遺伝カウンセリングを容易に受けることができる体制づくりを検討するための市街地及び島嶼部の地域住民と看護職者を対象とした基礎調査(佐々木, 2011)では、長崎県の地域住民と看護職者の遺伝カウンセリングの認知度は低く、受診場所はさらに知られていない状況であった。看護職者の結果では、島嶼部の看護職者に住民から遺伝相談を受けた経験が多く、遺伝カウンセリングのニーズも市街地より有意に高い結果であった。地域住民にとって身近な看護職者が相談相手であり、島嶼部、過疎地の看護職者の一次遺伝相談の窓口としての役割はより大きいものと考えられる。しかし島嶼部、過疎地の看護職者が遺伝教育を受ける機会は今現在ない。島嶼部や過疎地の看護職者の経験を知ることは、今後の一次遺伝相談の充実に向けた示唆を得ることにつながる。と考える。

2. 研究の目的

本研究は、一次遺伝相談の充実のために、島嶼部、過疎地の看護職者のための遺伝教育プログラムを開発することを目的とする。更に、教育の継続を図るために看護職者間のネットワーク確立をめざすものとする。

3. 研究の方法

(1) 島嶼部・過疎地の看護職者の遺伝相談の実態調査

島嶼部・過疎地で看護職者が地域住民から受けた遺伝相談(一次遺伝相談)の経験とそ

の中で看護職者が抱える困難の要因を明らかにする。

島嶼部・過疎地の看護職者の卒後の遺伝看護教育の実態とニーズを明らかにする。

(2) 島嶼部・過疎地の看護職への遺伝教育プログラムの開発と実施、評価

4. 研究成果

(1) 島嶼部・過疎地の看護職者の遺伝相談の実態調査

方法：島嶼部・過疎地の保健所及び保健センター4施設の保健師27人に、施設毎にフォーカスグループインタビューを実施した。

結果：保健師の経験から抽出された3個のカテゴリー(うち「保健師からみた地域住民」に関するもの1個、「保健師」自身に関するもの2つ)と11個の概念(表1)からモデルを構築した(図1)。

表1. 保健師の遺伝相談の経験

カテゴリー	概念
保健師から見た住民の遺伝・遺伝相談への思い	地域性(島)による相談のしにくさ
	責任追及への思いと態度
	近親婚の多さとタブー
保健師の遺伝相談に対する認識の乏しさ	インターネット情報による混乱
	遺伝相談としての認識の乏しさ
保健師の遺伝相談に対する無力感	遺伝相談体制に対する認識の乏しさ
	対応への不全感
	成すすべの無さへの辛さ
	遺伝相談としての自信の無さ
保健師の無力感	地域住民と曖昧なつながり
	病気に対する情報不足

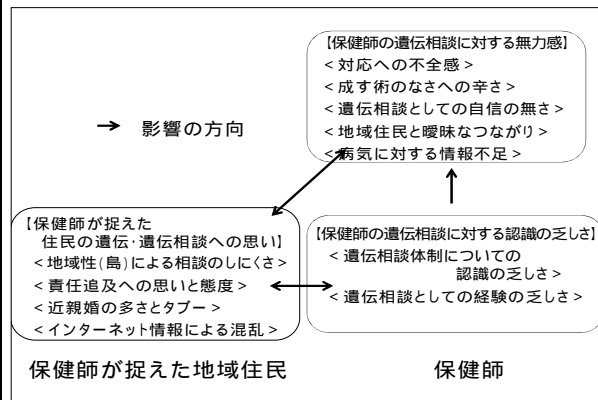


図1. A市保健師の遺伝相談の経験

考察：保健師は業務の中で様々な遺伝相談に対応しており、地域の遺伝相談において保健

師の役割が大きいことは明らかであった。保健師から見た地域住民は島特有の人間関係や遺伝の認識から遺伝相談に抵抗を感じていた。そのため遺伝の情報源はマスメディアによるものであり、不要な不安と混乱を抱く可能性をもっていた。また、長崎県内には遺伝相談の専門機関や専門職が少ないことも、遺伝相談受診に影響していると考えられた。一方、保健師は対応する様々な遺伝相談に無力感を抱いていた、その要因として、自身の遺伝相談という認識の乏しさ、遺伝に関わる情報や保健師自身の相談相手の欠如、地域住民の遺伝相談への抵抗感が考えられた。

(2) 島嶼部・過疎地の看護職者の卒後の遺伝看護教育の実態とニーズ調査

方法：島嶼部 18 施設 650 名の看護職を対象に質問紙調査を実施した。有効回答は 320 名（有効回答率 49.2%）であった。

結果：対象者の職種は、保健師 50 名（15.6%）、助産師 14 名（4.4%）、看護師 256 名（80%）であった。遺伝性疾患の人と関わった経験は 88 名（28.6%）があると答えた。その中で、遺伝相談をうけた経験がある者は 48 名（54.5%）であった。相談内容で最も多かった項目は「病気自体について（症状、合併症、遺伝形式等）」であり、次いで「今後の対応策」、「社会福祉制度」、「結婚について」の順に多かった。遺伝相談を受けた経験のある 48 名中、遺伝相談での対応に困った経験があると答えたものは 31 名（64.6%）であった。困った内容は、「知識・情報、社会資源の少なさ」、「経験不足」、「相談先のなさ」であった。困った時の看護職自身の相談先があると答えたのは 26 名（10.5%）で、最も多かった相談先は「保健所」であり、次いで「大学病院・医師」であった。遺伝について学びたい内容として最も多かったのは「遺伝学の基礎」であり、次いで「患者、家族への対応」、「相談先、公的制度等」、「遺伝医療の実際」であった。

考察：相談経験のある者の 6 割以上がその対応に困った経験があると回答していた。看護職が抱える「知識・情報、資源のなさ」、「経験不足」、「相談先のなさ」等の問題は、医療資源等の地域性の問題だけでなく、看護職が卒後に遺伝を学ぶための教育資源の不足も主な原因の一つと考えられた。島嶼部・過疎地の看護職者が学びたい内容は受けた相談内容に対応しており、実践で活かすことのできる内容が望ましいと考えられた。

(3) 島嶼部・過疎地の看護職への遺伝教育プログラムの開発・実施と評価

プログラムは看護職者が遺伝相談で生じる困難の原因である「知識・情報、資源のなさ」、「経験不足」、「相談先のなさ」に対応する内容とした。また、(1) で明らかとなった島嶼部の「人が流れない」社会であるが故に生じやすい遺伝、遺伝相談への抵抗感を看護職者から軽減し、身近な問題として受け止めることが出来るよう最近のトピックも含む内容とし、2 時間で構成した。

<プログラムの内容>

1. 身近なことから遺伝を考える
2. 遺伝の基礎「遺伝子と DNA と染色体」
3. 遺伝に関わる問題の難しさ（事例から）
4. 最近の遺伝医療のトピックス
「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）」

実施：プログラムは県内看護協会の島嶼部支部長の協力が得られた 1 地域で、平日夕方に現地会場で研修会として実施した。参加者の募集は開催地の看護協会会員に案内を送付した。研修会の参加者は 11 名で、看護師、助産師、保健師であった。

評価：研修会終了後に参加者に質問紙調査を実施した。プログラムの内容は全員が「非常に良かった」、「良かった」であった。プログラムの活用として、「患者への対応」や「相談を受けた時の相談先」があったが、半数は「わからない」と答えていた。また、プログラムにトピックとしてあげた HBOC について

聞いたことがある者は 25%であり，島嶼部に遺伝医療の診療体制が無いこと，遺伝に関する情報源が少ないことも原因の一つと思われる．今後，プログラムに事例展開を取り入れ，現場で活用可能な内容を検討していく．また，今回の研修会はネットワークの確立の第一歩ととらえ，今後も継続した教育の機会を提案していく．

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

1. 浅野浩子，中込さと子，柗中智恵子，佐々木規子，小笹由香，新生児看護領域の高度実践看護師のための遺伝看護ケアの学習課題に関する質的研究，日本遺伝看護学会誌，15(2)，68-76，2017．査読有
2. 浅野浩子，中込さと子，柗中智恵子，佐々木規子，小笹由香，母性看護領域の高度実践看護師のための遺伝看護ケアの学習課題に関する質的研究，日本遺伝看護学会誌，15(2)，77-86，2017．査読有
3. 松土良子，中込さと子，佐々木規子，沓脱小枝子，加藤美朗，後藤清恵，柗中智恵子，成人期の Prader-Willi 症候群の人の基本的ニーズを充足するための対処法に関する記述研究，日本遺伝看護学会誌，15(1)，81-99，2016．査読有
4. 佐々木規子，森藤香奈子，松本正，宮原春美，長崎県内島嶼部 A 市の保健師の遺伝相談の経験，日本遺伝看護学会誌，13(2)，75-82，2015．査読有
5. Morifuji K，Matsumoto T，Kondoh T，Nagae M，Sasaki N，Miyahara H，Honda S，Tanaka G，Moriuchi H，Nakane H，The relationship between physical signs of aging and social functioning in persons with Down syndrome in Japan，Acta Medica Nagasakiensia，58(4)，113-118，2014．査読有
6. 佐々木規子，森藤香奈子，松本正，宮原春美，長崎大学公開講座遺伝学講座「遺伝

- について楽しく学ぼう」の開催と評価，保健学研究，26，39-45，2014．査読有
7. 中尾優子，森藤香奈子，荒木美幸，佐々木規子，山本直子，滝川由香里，小児看護学におけるディベート学習の導入とその効果，保健学研究，26，47-51，2014．査読有
 8. 森藤香奈子，佐々木規子，土居美智子，本村秀樹，森内浩幸，近藤達郎，松本正，染色体異常児家族が告知に望むもの - 構造構成的質的研究法によるアンケート調査 自由記載の分析 - ，日本周産期・新生児医学会雑誌，49(1)，227-232，2013．査読有
 9. Yasuhi Y，Miyahara H，Clinic-Based Sex education for adolescent girls using their visits for purpose of HPV vaccination，Japan Journal of Sexology，31(7)，89-95，2013．査読有

〔学会発表〕(計 26 件)

1. 松本恵，矢野洋，大坪竜太，稲益英子，馬場雅之，畑地登志子，佐藤綾子，田中彩，瀬川景子，磯本一郎，佐々木規子，月川弥生，上谷雅孝，永安武，ハイリスクグループに対する検診 ハイリスクグループへの乳がん検診サーベイランスの実際，第 26 回日本乳癌検診学術集会，2016 年 11 月 4～5 日，久留米シティプラザ（福岡県久留米市）
2. 佐々木規子，森藤香奈子，近藤達郎，松本正，宮原春美，長崎県島嶼部の看護職の卒後遺伝教育に対するニーズ調査，日本遺伝看護学会第 15 回学術大会，2016 年 9 月 24～25 日，新潟日報メディアシップ（新潟県新潟市）
3. 松本恵，矢野洋，大坪竜太，稲益英子，馬場雅之，田中彩，山之内孝彰，久芳さやか，三浦清徳，金内優典，増崎雅子，三浦生子，佐々木規子，江口晋，増崎英明，永安武，地方大学病院における HBOC 診療の現状 婦人科との連携を含めて，第 24 回日本乳癌学会学術集会，2016 年 6 月 16～18 日，東京ビッグサイト（東京都江東区）

4. 松本恵, 田中彩, 大坪竜太, 矢野洋, 久芳さやか, 山之内孝彰, 増崎雅子, 三浦清徳, 佐々木規子, 増崎英明, 江口晋, 永安武, 乳腺外科医を中心とした遺伝性腫瘍の診療体制, 第116回日本外科学会定期学術集会, 2016年4月14~16日, 大阪国際会議場, リーガロイヤルホテル大阪(大阪府大阪市)
5. Morifuji K, Sasaki N, Matsumoto T, Miyahara H, Genetic Education for Children: A Nagasaki University Initiative, The 13th International Congress of Human Genetics, 2016年4月3~7日, 国立京都国際会館(京都府京都市)
6. 中込さこと, 佐々木規子, 沓脱小枝子, 後藤清恵, 柊中智恵子, 成人期 Prader-Willi 症候群の人の基本的ニーズを充足するための対処法に関する記述研究, 第40回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2016年4月3~6日, 国立京都国際会館(京都府京都市)
7. 佐々木規子, 認定遺伝カウンセラーが関わる遺伝教育, 日本人類遺伝学会第60回大会, 2015年10月14~17日, 京王プラザホテル(東京都新宿区)
8. 長谷川ゆり, 三浦清徳, 東島愛, 高野玲, 村上優子, 淵直樹, 野々下晃子, 三浦生子, 佐々木規子, 増崎雅子, 増崎英明, 当院における母体血を用いた胎児染色体検査の現状, 日本人類遺伝学会第60回大会, 2015年10月14~17日, 京王プラザホテル(東京都新宿区)
9. 佐々木規子, 森藤香奈子, 永野明子, 渡名喜海香子, 松本正, 宮原春美, 遺伝教育プログラムの実践報告-小学校親子レクレーションでの開催-, 日本遺伝看護学会第14回学術大会, 2015年10月10~11日, 熊本市医師会館(熊本県熊本市)
10. 松土良子, 中込さと子, 佐々木規子, 沓脱小枝子, 成人期の Prader-Willi 症候群の人の基本的ニーズに関する2事例の報告, 日本遺伝看護学会第14回学術大会, 2015年10月10~11日, 熊本市医師会館(熊本県熊本市)
11. Sasaki N, Morifuji K, Matsumoto T, Miyahara H, A Practical Genetics Education Program for Preschoolers, The 11th ICM Asia Pacific Regional Conference, 2015年7月20~22日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
12. Nakagomi S, Araki N, Ozasa Y, Nomaguchi C, Sasaki N, Fujita M, Yamashita H, Miyake H, Tamaoki T, Fukushima Y, A Prenatal Testing Training Program for Nurse Midwives and Maternal Caretakers, The 11th ICM Asia Pacific Regional Conference, 2015年7月20~22日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
13. 佐々木規子, 森藤香奈子, 松本正, 宮原春美, 遺伝学講座『遺伝について楽しく学ぼう』過去12年の取り組み, 第39回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2015年6月25~28日, 三井ガーデンホテル千葉(千葉県千葉市)
14. 佐々木規子, 中川奈保子, 滝澤公子, 櫻井晃洋, 認定遺伝カウンセラーの遺伝教育実践に関する調査, 39回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2015年6月25~28日, 三井ガーデンホテル千葉(千葉県千葉市)
15. 森藤香奈子, 佐々木規子, 宮原春美, 松本正, 子ども達のための遺伝教育「遺伝について楽しく学ぼう」~10年間の振り返りと今後の課題~, 第62回日本小児保健協会学術集会, 2015年6月19~20日, 長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホール(長崎県長崎市)
16. 松本恵, 矢野洋, 進藤久和, 大坪竜太, 山之内孝彰, 三浦清徳, 松本正, 佐々木規子, 増崎英明, 江口晋, 永安武, 当院における遺伝性乳がん卵巣がん症候群スクリーニングの体制構築, 第21回家族性腫瘍学会学術集会, 2015年6月6~7日, ラフレさいたま(埼玉県さいたま市)
17. 増崎英明, 近藤達郎, 福崎博孝, 篠原駿一郎, 藤本佳代子, 坂井律子, 佐々木規子, 三浦清徳, シンポジウム 長崎遺伝倫理研究会「出生前診断の何が問題か?」, 日本人

- 類遺伝学会第 59 回大会, 2014 年 11 月 19 ~ 22 日, タワーホール船越(東京都江戸川区)
18. 佐々木規子, 森藤香奈子, 松本 正, 宮原春美, 幼児を対象とした遺伝教育プログラムの実践報告, 日本遺伝看護学会第 13 回学術大会, 2014 年 10 月 24 ~ 25 日, 琉球大学(沖縄県中頭郡西原町)
19. 中込さと子, 武田祐子, 柊中智恵子, 佐々木規子, 日本遺伝看護学会第 13 回学術大会, 2014 年 10 月 24 ~ 25 日, 琉球大学(沖縄県中頭郡西原町)
20. 下村愉宇子, 松本衣未, 佐々木規子, 宮原春美, 出生前診断に関する大学生の意識調査-看護学生と一般学生の出生前診断に対する認識の違い, 第 27 回長崎県母性衛生学会, 2014 年 6 月 22 日, 長崎大学(長崎県長崎市)
21. Oishi K, Sasaki N, Morifuji K, Relaxation effect of music on menopausal women, ICM 30th Triennial Congress, 2014 年 6 月 1 ~ 5 日, プラハコンgresセンター(プラハ, チェコ共和国)
22. Tsubota S, Sasaki N, Miyahara H, Study on the experiences of expectant mothers of twins about their long-term hospitalization. ICM 30th Triennial Congress, 2014 年 6 月 1 ~ 5 日, プラハコンgresセンター(プラハ, チェコ共和国)
23. 松本恵, 矢野洋, 大坪竜太, 及川将弘, 南恵樹, 山之内孝彰, 久芳さやか, 佐々木規子, 松本正, 三浦清徳, 永安武, 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群診療体制の整備, 第 114 回日本外科学会定期学術集会, 2014 年 4 月 3 ~ 5 日, 国立京都国際会館(京都府京都市)
24. 森藤香奈子, 佐々木規子, 松本 正, 森屋宏美, 桜井晃洋, 宮原春美, 「子どもたちに向けた遺伝教育を考える研究会」の開催報告, 日本遺伝看護学会第 12 回学術大会, 2013 年 9 月 14 ~ 15 日, いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市)
25. 佐々木規子, 森藤香奈子, 宮原春美, 長

- 崎県内島嶼部の保健師の遺伝相談の経験, 日本遺伝看護学会第 12 回学術大会, 2013 年 9 月 14 ~ 15 日, いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市)
26. 黒岩紀子, 森田真理子, 葛島浩右, 葛島卓也, 佐々木規子, 森藤香奈子, 宮原春美, 特別な支援を必要とする子ども達に対する性教育プログラムの開発と実践, 第 10 回長崎県小児保健学会 2013 年 8 月 18 日, 長崎大学病院(長崎県長崎市)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 規子 (SASAKI, Noriko)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・助教

研究者番号: 9 0 3 1 5 2 6 8

(2) 研究分担者

・宮原 春美 (MIYAHARA, Harumi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授

研究者番号: 0 0 2 0 9 9 3 3

・森藤 香奈子 (MORIFUJI, Kanako)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授

研究者番号: 7 0 4 0 4 2 0 9

(3) 研究協力者

・松本 正 (MATSUMOTO, Tadashi)

・近藤 達郎 (KONDOH, Tatsuro)